

## 本会記事

### 情報処理学会創立の経過

電子計算機を中心とする情報処理に関する学術、技術は国際的に非常に躍進して、昨年6月パリで催された第1回“情報処理”国際会議 (The 1st International Conference on Information Processing)には37カ国から1780名が参加して学術を交換した。またこれに付属した展示会 (Auto Math-59)にも8カ国から29社が参加して、なかなか盛況であった。

わが国からはこの会議に16名が参加し、発表論文60のうち4、展示会にも4社が製品を出品して、いずれも各国専門家の注目を浴びたが、この方面的学術、技術は急激に向上しており、今後の発展を期待されてい る。

ユネスコはこういう会議を1回は主催するが、その後は学会の国際的な連合体が組織されることを勧めて、成立の際にはこれに引継ぐこととしている。そこでパリ会議の際にはその創立準備の打ち合せが行なわれ、本年1月1日付で12カ国が参加して“情報処理学会国際連合” (International Federation of Information Processing Societies) が発足した。しかしわが国には、このような範囲の学術技術を対象とする学会はなく、また既設の学協会の連合委員会がこれに対する代表機関となるには、10学会以上の意見を総合する必要があつて運用にも困難が予想される。昨秋以来有志がいろいろな案を練った末、昭和35年2月9日には関係学協会、2月10日に関係業界各社の代表に参集を願って相談した。結論として、この方面的学術、技術を向上するための国内問題としても新らしい学会を設立するのがよかろうとの意見が圧倒的であった。そこで166名のかたに発起人を願い、3月1日発起人会を開き、改めて3月21日評議員会を開き、会の設立に必要な諸規則案を定め、4月1日を以て“情報処理学会”を創立することとして、4月22日創立総会、記念講演会を開催できる状態になった。

### 創立総会の状況

昭和35年4月22日（金）午後1時45分から国際電信電話（株）講堂に約150名出席して始められた。

発起人河野忠義氏が仮座長として開会を宣し、高崎

勲氏創立に至るまでの経過および学会規則(案)の内容を説明し、全員異議なく学会規則を承認した。ついで昭和35年度役員について、規則による選挙によらず、発起人会で話し合った候補者の氏名を掲げて譲った結果、本年度に限り1カ年の任期で下記の如く承認決定された。

#### 昭和35年度役員

会長 1名 山下英男

副会長 1名 山内恭彦

常務理事 4名

高崎 勲、高橋秀俊、森口繁一、和田 弘

理事 8名

宇野利雄、茅野 健、川上寿一、喜安善市、後藤以紀、清宮 博、南沢宜郎、森田優三

監事 1名 齊藤 有

評議員 55名

青山秀夫(京都大学)、浅見義弘(北海道大学)、荒川康夫(電力中央研究所)、安藤 肇(日本IBM)、石川武二(電電公社)、井深 大(ソニー)、弥永昌吉(東京大学)、岩片秀雄(早稲田大学)、大亦四郎(日本レミントン・ユニバック)、小田原登志郎(統計局)、小野寛徳(能率大学)、奥野治雄(日電新興)、加藤重義(有隣電機)、鴨志田清(通産省)、川上正光(東工大)、川畑幸夫(気象庁)、岸上 勉(沖電気)、岸本英八郎(甲南大学)、北川敏男(九州大学)、国井修二郎(京都大学)、熊谷三郎(大阪大学)、後藤正夫(行政管理庁)、阪本捷房(東京大学)、篠尾正明(防衛庁技術本部)、篠原武司(鉄道技研)、清水辰次郎(大阪府立大学)、島 秀雄(国鉄)、城 憲三(大阪大学)、末綱恕一(統計数理研)、杉田元宜(一ツ橋大学)、杉本正雄(機械試験所)、高田昇平(日立製作所)、堤 厚(北辰電機)、津村利光(神奈川大学)、出川雄二郎(日本電気)、時実利彦(東京大学)、友田三八二(横河電機)、豊田準三(三菱電機)、鳥海 登(谷村新興)、長沢不二夫(三菱化成)、永井健三(東北大学)、難波捷吾(国際電電)、馬場敬治(東京大学)、久田太郎(科学技術庁)、平井泰太郎(神戸経済大学)、藤瀬新一郎(東北大学)、穂坂 衛(東京大学)、前田憲一(京都大学)、牧野雄一(東芝)、三熊文雄(NHK)、三

輪大作(科学技術情報センター), 山田 勇(一橋大学), 山内二郎(慶應義塾大学), 吉田亜夫(松下通信工業), 米沢 澄(電電公社), 米山正雄(九州大学), 若林 煦(東京大学)

ついで会長議長席につき, 就任の挨拶を行った。会の成立に対し日本学術会議議長および科学技術庁長官よりの祝辞, 外国関係学会等よりの祝電, 祝文の披露があった(本文記事参照)。

ついで和田常務理事より昭和35年度事業予定および予算(案)の説明があり全員異議なく承認された(本会記事参照)。これをもって創立総会を終り、引続き下記題目による記念講演会が開かれた。

#### ○記念講演会

電子計算機の将来 高橋秀俊君(東大理教授)  
計算をしない電子計算機

和田 弘君(電気試験所電子部長)  
プログラミングをめぐって  
S I P言語の相互調整, 反復法  
における収束とまるめの誤差

森口繁一君(東大工教授)  
経済計画と電子計算機

鴨志田清君(通産省調統・製表課長)  
(講演は本号と次号とに掲載)

#### ○記念懇親会

講演会終了後永楽倶楽部において、会長以下理事および会員有志30名が集って創立記念の懇親会が開かれた。

### 昭和35年度事業予定

#### 1. 学会誌“情報処理”の発行

1冊は64ページとし、隔月発行とする。(時期をみて、月刊に改める予定)

内容は大略次のとおりとする。

独創的論文	24 ページ
啓蒙的論文(総合報告、技術解説、資料などを含む)	12 ページ
講 演	3 ページ
内外文献の紹介	12 ページ
内外学界の動き、本会記事	9 ページ
広 告	4 ページ
計	64 ページ

#### 2. 月例講演会

専門分野を決めて、毎月1回講演会を開催する。  
(分野によって関係学会と共に開催することもある)

講演の内容はなるべく会員の寄稿によることにする。その際は略写版ずりの予稿を配布する。寄稿は質疑討論とともに会誌に掲載されるはず。

#### 3. 研究委員会

特定の事項について調査研究を要する場合は、その都度研究委員会を設けて、その解決に当てる。

#### 4. 大 会

大会を本年度は、秋季に東京で開く。

#### 5. I. F. I. P. S への加盟

### 昭和35年度予算

#### 収入の部

正員会費、入会金収入	1,100円 × 1,000人	110万円
賛助員会費収入	20,000円 × 120口	240 "
計		350万円

#### 支出の部

事務費(女子職員1名経費、消耗品等)	50万円
会議費	12
通信費	7
集会費	8
月例講演会、研究委員会費	60
会誌出版費(64ページ、1,500部×6)	160
I. F. I. P. S. 分担金(250ドル)	9
海外派遣費*	25
創立費	19
計	350万円

\* 海外派遣費(奨学金)は4年に1人、100万円と予定し、分割して積立てる。